

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートのご自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科・経営戦略専攻
大項目	2 教育課程等
中項目	
小項目	2.0.1 学習目標
要素	<p>学習目標をシラバス等に明記し、学生に周知公表をしているか。</p> <p>学習目標の達成のために、授業科目履修指導指針を定め、履修相談に応じる配慮をしているか。</p> <p>学習目標の達成のために、学生、教員及び職員間のコミュニケーションシステムを構築し、学習相談及び学習助言の円滑化を図る方策をとっているか。</p>
小項目	2.0.2 教育課程
要素	<p>教育課程の編成において、「教育研究上の目的」を達成する理論的教育と実務的教育の架橋に留意し、マネジメントの教育研究及び実務の動向に配慮しているか。</p> <p>教育課程の編成において、企業等組織のマネジメントに係る高度専門職業人育成に必要な高度の専門的知識・技能と高度の職業能力の修得、職業倫理観の涵養及び国際的視野の拡大に配慮しているか。</p> <p>教育課程の体系的な編成において、マネジメント教育に必要なコア科目への分類を含めて体系的に配置しているか。</p> <p>教育課程を検証するプロセスを明確に定め、継続的に検証しているか。</p> <p>他研究科の授業科目の履修、他大学との単位互換、インターンシップによる単位認定等の措置を講じているか。</p> <p>授業の方法において、実践的な教育を行うために事例研究、現地調査、双方向又は多方向に行われる討論又は質疑応答その他の適切な授業の方法を導入しているか。</p> <p>授業の方法において、多様なメディアを高度に利用して通信教育の授業を行う場合には、授業の実施方法の整備に努め、教育効果の向上に努めているか。</p>
小項目	2.0.3 教育水準
要素	<p>教育内容の水準を維持していくために、学習環境及び学習指導体制を整備しているか。</p> <p>教育内容の水準を維持していくために、1単位の授業科目の学修に必要なとされる授業時間を確保しているか。</p> <p>教育内容の水準を維持していくために、授業科目の時間割配置を適切にし、授業科目の履修登録単位数の上限を設定し、授業科目の履修を適切にする指導をしているか。</p> <p>教育内容の水準を維持していくために、履修した授業科目の学業成績の評価基準及び教育課程修了の判定基準を明確に定め、学則等に記載し、学生に周知公表しているか。</p> <p>教育内容の水準を維持していくために、学業成績の評価及び課程修了の判定を公正に実施し、客観性と厳格性が得られる措置を講じているか。</p> <p>教育内容の水準を維持していくために、授業科目の履修登録の学生数を、授業の方法等の教育上の諸条件を考慮して授業の教育効果が十分に得られる適正な数としているか。</p> <p>教育内容の水準を維持していくために、留学生等の学生の多様化に対応した履修指導、学習相談及び進路指導等の学生支援を適切に行っているか。また、通信教育を行う場合には、十分に配慮した学生支援を適切に行っているか。</p> <p>教育内容の水準を維持していくために、学生の科目履修及び単位取得の状況等についての情報を教員間で共有し、必要な改善措置を講じているか。</p> <p>標準修業年限を短縮している場合には、「教育研究上の目的」に照らして、十分な教育成果が得られる教育方法及び授業時間割設定の配慮をしているか。</p>
小項目	2.0.4 教育研究の質維持向上の取組
要素	<p>開講する各授業科目の授業目的、授業内容、授業計画、授業方法、使用教材、オフィスアワー及び授業評価基準等を明記し、学生の学習目標の達成に資する内容のシラバスを作成し、公開し、ピュアーレビューによるシラバスの検証をしているか。</p> <p>学生の科目履修状況、課程修了状況、単位取得状況、学業成績状況及び進路状況等の調査から、また、ステークホルダーの意見等から、教育課程の改善の検証をしているか。</p> <p>教育研究の質維持向上を図るために、自己点検評価を継続的に行い、その評価結果を広く社会に公表しているか。</p> <p>教育研究の質維持向上を図るために、自己点検・評価の結果をフィードバックし、教育研究の質の維持向上及び改善を図る組織的な研修をしているか。</p> <p>教育研究の質維持向上を図るために、教員の優れた教育及び研究の業績を評価する制度を整備しているか。</p>

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」		左記目標の「指標」	進捗評価				
			2009	2010	2011	2012	2013
BS	1. Organize the curriculum, in terms of time and contents, so that it would be easier for the working students to take classes. 多忙な社会人学生が受講しやすいような時間と内容に配慮したカリキュラム体系の整備	→Provide the courses by e-learning, establish the courses conducted mainly on Saturdays and Sundays, and provide the pre-courses before entrance for students to learn mathematics, statistics, and to learn how to use PCs. eラーニングでの科目提供や土日集中型履修コースの設置と入学前の主として数学・統計学とパソコン操作等に慣れるためのプレコースの提供	D	C	B		
IMC	2. Adjust curriculum to maintain a good balance between rigor (academic theory) and relevance (practical application) of the content of our courses. (カリキュラムを改善し、授業内容のrigor(学術的理論)とrelevance(実践)の良いバランスを維持する)	→Examine curriculum to determine appropriate balances of rigor and relevance. (rigor及びrelevanceの適度なバランスを保つため、カリキュラムを検討する。)	A	A	A		
IMC	3. Examine courses and adjust number and type of electives. (授業科目の検討と選択科目の数・種類の調整を行う)	→Examine the overall number of our elective course offerings and add and delete where necessary. (アドバンスド科目全体の数の検討。必要に応じて追加・削除。)	B	B	B		
IMC	4. Examine our main courses and adjust the sequencing where necessary. (主だった授業科目の検討と履修ステップの調整を行う)	→Examine the core and basic courses and where necessary and possible introduce prerequisites and sequencing. (コア及びベーシックの検討。必要に応じて先修条件科目と履修順を導入。)	C	C	B		
IMC	5. Develop the option of having Japanese language and Japanese business/management as a more prominent part of our curriculum. (カリキュラム内で、日本語及び日本型ビジネス・日本型経営への理解を深められる選択肢を開発していく。)	→Examine the number of courses offered on the Japanese business environment and work with other units of Kgu to develop options for Japanese language courses for our students. (日本型ビジネス環境に関する科目数を検討し、大学内の他学部と協同で日本語クラス履修の選択肢を準備する。)	C	C	B		
			☆				
2010年度以降に設定した「目標」		左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
		→					
		→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	今年度新たに、学生の入学前の学力のレベルアップを図り、コア科目等の円滑な授業開始を可能にするため、「プレコース」を実施した。2011年度秋入学者を対象に、入学前の時期に、基礎数学、コンピュータリテラシ、および、簿記会計についての入学前教育を実施した。また、2012年度入学生より、入学時の申請によってのみ、早期修了(修業年限や在学期間の短縮)が可能にすることにした。また、全科目について成績を厳格化することで、安易な早期修了をなくし、学生が修了までの履修計画をきちんと練り、十分な学習量を確保することが期待され、その効果は、2012年秋学期以降に出ると考えられる。
目標2	Each instructor paid close attention to the appropriate balance between relevance and rigor in their respective class teaching. Case discussions and guest speaker sessions are very frequently adopted in IMC classes, while faculty members are active in publishing their papers, presenting at academic conferences, and winning research grants. 各教員が各々の担当科目授業における実践と学術理論の適正バランスに細心の注意を払っている。事例研究を用いたディスカッションやゲストスピーカーを招いてのセッションはかなり頻繁に国際経営コース授業に採り入れられている。教員も、論文の出版・学会発表・研究費獲得など活動的である。
目標3	In order to provide students with more diversified learning opportunities, several new Advanced classes were added during 2011, including Business Negotiation, Information Management for Decision Making, Service Marketing, Asian Financial Market, Japanese Financial Practice, Accounting Theory and Practice, and Special Topics in Finance. 更に多様な学習の機会を学生に提供するため、2011年度にアドバンスト科目をいくつか新たに開講した。新規科目は次の通り：「Business Negotiation」、「Information Management for Decision Making」、「Service Marketing」、「Asian Financial Market」、「Japanese Financial Practice」、「Accounting Theory and Practice」、「Special Topics in Finance」。
目標4	Recommended class sequences were periodically presented to students, and our regular class evaluation survey shows that there were fewer occasions where students experienced difficulty in understanding advanced class contents (due to the lack of understanding of core / basic class contents). 望ましい一連の科目履修については定期的に学生に説明しており、周期的に実施している授業評価アンケートによると(コア・ベーシック科目の理解不足により)アドバンスト科目の内容理解を困難と感じた学生はあまり見られない。
目標5	2011年度から実施しているハイブリッドコースの提供科目としてファイナンス分野の授業を実施した。履修者は19名、企業経営コースの学生と国際経営コースの学生がほぼ半々の受講で、両コースの学生から非常に高い評価を受けた。ケース討論の際の事前のグループワーク等でも、意図的に留学生と企業経営コースの学生を混合させることにより、学生同士のコミュニケーションも活発になったようだ。その結果、授業に意欲的に取り組む学生が増え、レクチャースタイルの授業では期待できない教育効果があったと認識している。教員が感じる教育効果と、学生のフィードバックによる満足度が高かったので、2012年度はハイブリッドコースの提供科目を増やすことを決めた。2012年度にはマーケティング分野とテクノロジーマネジメント分野から一科目ずつハイブリッド科目を提供し、合計3科目の提供をはじめめる。
備考	